

会員の皆様へ：年会費納入の情報：郵便封筒の宛名下の数字参照。2023 は 2023 年度まで納入済み。

## しのばず自然観察会より 2023-05 2023.05.07

### 2023年5月の活動 不忍池 定点観察



集合：2023年5月21日（日）  
午前10時 不忍池 蓮池南西端  
緑の小旗あり（野外ステージ西側、  
湯島天神下交差点寄り）

今回は雨天中止

持物：筆記用具、双眼鏡、雨具、マスク  
（敷物、昼食、飲み物、日傘）

解散は午後1時頃ボート池畔または藤棚  
参加費不要 非会員の参加も歓迎

コロナ対策にも留意を！ 5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが季節性インフルエンザ並みの5類になるのに伴い、感染者の全数把握がなくなるほか、登録医療機関の感染者数が1週間後でないと公表されないそうです。3月末から見られ始めた感染者数の増加が、全国的になりつつあり要注意です。

### 2023年 4月23日の観察記録

雨が降るほどではない曇り空のもと、4月23日の観察会には、12名が参加しました。ハスの新葉が水面に浮かび始め、枯れ葦の下半分に緑の新芽がコントラストを付けていました。ちょうど草刈りがあって、草の花はちらほら。コゴメイヌノフグリの花も少なくなりました。それでも、草刈り直後だった4月19日よりは増えていました。それにしても、花をつけている植物はほとんどが外来種か園芸種、在来の野草は少なくなりました。

例年より早く冬鳥のカモ類やオオバンが姿を消し、ユリカモメでは夏羽の頭が黒い個体が1/3ほどを占め、初夏の気配を感じました。

カイツブリが少なくとも2家族、せつせと餌を子どもに与える親鳥の姿が間近で見られました。

鳥：カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、ユリカモメ、ウミネコ、オナガ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、ドバト 計 21 種（坂部嗣雄）

開花植物：ノゲシ、オオイヌノフグリ、コゴメイヌノフグリ、雑種タンポポ（推定4倍体、両親の種は不明）、キュウリグサ、ユウゲショウ、キショウブ、ヘビイチゴ、カタバミ、カラスノエンドウ、ハルジオン、オオバコ、ツボミオオバコ、コメツブツメクサ？ 園芸種では、サクラ（八重系）、ハコネウツギの仲間、タチアオイ、ジャーマンアイリス、アメリカハナミズキ（小川潔）



カイツブリの親子 ↑

アオサギ ↓

ゴイサギ ↓



6月の定例活動（不忍池定点観察）は6月11日（日）の予定です。

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔方  
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL: <http://sinobazu.extrem.ne.jp>  
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円

\*\*2022年以前の会費未納の方もお忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ\*\*

## 2023年4月23日の活動

小川千恵子

バス停から、いつも通りにボート池北側へ。9:27

池の中、岸とボート場の水面の間の境になっている、ひっくり返したボートの上にユリカモメが10羽いて、その内の3羽の顔や頭が黒く夏羽に換わっている。一番東側のボート背に真黒なカワウが羽を大きく広げて立っている。他の鳥はいない。

集合地（南）の方へ歩を進めるとシジュウカラの鳴き声が聞こえ、例のハンノキに2羽飛来。少し進んで、池側の草地に青いオオイヌノフグリ（大犬の陰囊）、ピンクのカラスノエンドウ（烏野豌豆）、アメリカフウロ（アメリカ風露）が見られる。

トリのモニュメントの南の地面には黄色いカタバミ（傍食）。そしてひからびた濃いピンクの桜らしき花が無数に落ちている。木には「カンザン」と名札が下がる。右側のオオシマザクラには緑の実がついていて、赤い実も少しある。左、池の中の大きなコンクリートの植木鉢には黄色いショウブ（？）地べたにくっつくようにセイヨウタンポポ（西洋蒲公英）が背の低い花を咲かせていて、白い実になっているものはぐーんと花の柄が伸びている。このタンポポは池の縁の方々に見られた。続いて、白いコゴメイヌノフグリ（小米犬の陰囊）、オオバコ（大葉子）。

集合地手前の蓮池にカイツブリ5羽発見！すぐ潜るので親か子か確認できず。

30分間のひとり観察を経て、集合地へ。

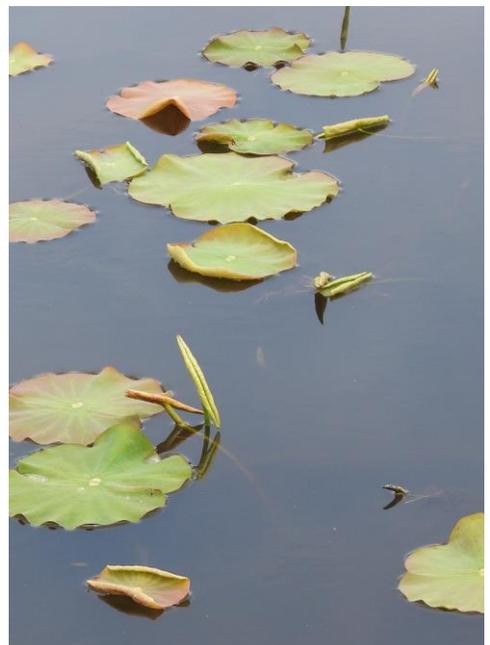
集合地の目の前の蓮池の際に濃いピンクの花がビッシリついた木が目に入る。双眼鏡で見ても花の詳しい様子は確かめられない。ハコネウツギの仲間らしい。

集合地のすぐ後ろのしのばず通りへ出る道の真ん中に一本の白い花のついた木。アメリカハナミズキ。3月は花・花・花だったが今回は様子が違う。良く見ると花ではなく、くるりと円くなったものがついている。花のガク？

3月にスノーフレイクがあった辺りは誰かが植えたのか折々に色々な花が見られる。今回は紫のジャーマンアイリスと小振りな濃いピンクに縁どりされたピンクの花びらの派手目のタチアオイ。

野外音楽堂を過ぎて、池縁の地面にピンクのユウゲショウ（夕化粧）。

蓮池の蓮は水面に小さな円形の葉が浮いている。どうやら、蓮の葉は出て来る時、両端から真ん中に向かって巻いていて、巻いた端のどんがった部分から水面につっ立つように出くる。



その後、巻いた葉が水面で広がって長四角の長い両辺が内側に丸まった舟のように水面に浮き、次に丸まったところが伸びて、本来の円形の葉になって水面に浮いているようだ。こんな様子を見るのは初めてのこと。

ムクドリが1羽、葉桜の木で鳴いている。アオサギが1羽枯れた蓮葉の中にジッと立っている。気づくと2羽が東の方向へ飛んで行く。蓑羽を持つコサギが1羽水の中に立っていたが飛んで池東の催事場の方へ。またアオサギが飛んだり、枯蓮の中に6羽いたり、見ごたえ有り。カイツブリ5羽。親2羽、子3羽。例のアカガシラサギを見た辺りのヨシ原の水面にバンが1羽。周りの背景になじんでいて、なかなか見つけにくい。

弁天堂小藤棚の紫の花が少し咲き始めている。房は小さい。大藤棚はしっかり刈られて花はどこ？端の方にちょっと見られた。

藤棚を背に目の前の枯蓮の中にコサギ2羽、アオサギ3羽、そしてその南にダイサギ1羽が次々と降り立つ。東側のヨシ原下の水辺には色のはっきりしたゴイサギがジーツとたたずんでいる。サギの饗宴！いつまでも見ていたい。

落羽松は緑の小さい葉がいっぱいになってきた。

ボート池と蓮池の間の道を南下。またカイツブリが4羽。親2、子2。どうも池全体では親子3組がいるらしい。

道のボート池側の地面に黄色いノゲシ（野罌粟）。縁が少しピンクがかったハルジオン（春紫苑）。ここで似ているハルジオンとヒメジョオン（姫女苑）の話になった。調べたことと合わせると、共に北アメリカ原産。ハルは大正時代に、ヒメは明治時代に渡来。ヒメと違ってハルの茎は中空で、蕾は垂れる。私はずっと、ハルジョーンとヒメジョーンと思っていた。

春紫苑と姫女苑の話をしている時に、時の鐘が鳴り、今回は数えそこねた。

解散地のテラスへ。座っているイスの向こうにタブノキがあると言う。新芽が伸びていて、葉を包んでいる薄茶色の冬芽の上に緑が伸びている。こんなタブは初めて見た。

昼食時、目の前のボート池水面、屋根付きボートの屋根や白鳥型ボートの頭にウミネコ3羽。  
今日も色々あって、おもしろかった。

## くりばやしきくお 絵本原画展のご案内

本会会員の栗林菊夫さん（いたばし野鳥クラブ会長）の作品展です。

ドイツ菓子&ランチのカフェ クネーテン（KNETEN 文京区白山3-2-4 1F）にて

5月15日午後6時まで開催中（8日、9日は休み）

会場へは、丸の内線茗荷谷駅より徒歩9分 小石川植物園のすぐそば、共同印刷前の道路（千川通り）を大塚駅方向へ、小石川消防署の並び、共同印刷寄り